

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	社会福祉学基礎演習 I		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

秋学期は、少し慣れてきて来て一回生とも近くで話せたなあと思っています。チューターとしては、グループの話し合いに参加したり、まとめて意見をいったりさせてもらいました。

チューターとしての仕事が決まっているわけではないですが、上手に先生がふってくださって、いたので、その点で苦労したりすることはありませんでした。福祉学科は、資格取得や、専門的な授業も多く他学部とは違うし、他の学部の友だちには聞けないことがあると思うのでチューターとしても、実習や社会福祉士、精神保健福祉士は、とるべきかなんていう質問があったり、いて意味があったんじゃないかなと思っています。

発言の際はあくまでも学生目線で、発言するようにしようと心がけました。秋はそれができたのではないかなと思います。ほんとにチューターというより、先輩というスタンスで入っていたのでけっこう楽しく時間が過ぎていました。

チューター業務は、楽しかったのですが、もっとがつつ話せれたらよかったと思いました。一回性にもっと言いたいことがあったなという思いです。

卒論発表の際は、春の発表に比べてかなりハードルがあり、発表するのがとても嫌でした。一回生にとっては、卒論はほど遠く興味とかないのかなと思っていたのですが、けっこう顔をあげて聞いてくれていたので発表しがいがありました。

私が卒論の資料を一回生に見せても一回生は、興味津津に見ていて、調べるとかそのきっかけさえあればいろんな方向に向いていく一回生に刺激を与えられたらなあと思います。

<今後のチューターまたは先生への提案>

ゼミの先生の前で卒論の話を聞くのはきつかったです。